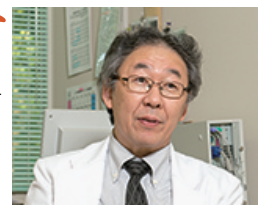
いぶり腎泌尿器科クリニック 広報誌
IBULIVE いぶりぶ
いぶり＋Live
NO.47 秋 号

前立腺肥大症の治療について

坪院長の健康講座

院長　坪　俊輔



本号では前号に引き続き、前立腺肥大症の治療についてお話します。

排尿・蓄尿障害の原因としては前立腺癌・前立腺炎・尿道狭窄・膀胱癌・尿路結石・神経因性膀胱（膀胱尿道機能障害）などの他疾患が除外できれば前立腺肥大症の治療に入ります。治療方針の流れは〈図－1〉に示しました。前立腺肥大症は良性疾患であり、排尿障害・蓄尿障害などの自覚症状の改善が治療の主目的で、前立腺を縮小させる事が目的ではありません。前立腺肥大症による排尿障害の機序は、前立腺の平滑筋が収縮して前立腺部尿道の抵抗が増す事による機能的通過障害と、肥大した前立腺が直接尿道を圧迫する物理的通過障害の2つとされています。（図－2参照）薬物治療（表－1参照）はまず尿道抵抗を下げるα－ブロッカーで開始するのが一般的かと思います。症状の推移をみて、PDE5阻害剤に変更したり5α－還元酵素阻害薬を併用したりします。なお前立腺肥大症の症状として、残尿が少なく排尿効率が保たれているにも拘わらず、頻尿・尿意切迫・尿失禁等の蓄尿障害が改善しない症例を多く経験します。α－ブロッカーの変更、PDE5阻害剤の使用等でも改善しないときには過活膀胱（OAB：排尿効率の低下・腫瘍・結石・尿路感染などの基礎疾患がない頻尿・尿意切迫・尿失禁）の治療薬を併用してみます。（表－2参照）また排尿効率の改善が不十分な症例ではα－ブロッカーの変更、さらに5α－還元酵素阻害薬を併用して経過をみます。なお、前立腺肥大症による排尿障害を悪化させる原因として、過度の飲酒・寒冷暴露・便秘・一部感冒薬の服用などがありますのでお気をつけください。

初診時に仮に尿閉（尿が詰まって自力では出せない）の状態でもすぐには手術は検討しません。昔と違い薬物治療の進歩が著しく、間欠導尿を併用しながら排尿管理を行い、投薬治療の効果を待つ事で改善する症例を多く経験します。しかし投薬にもかかわらず症状の改善が得られずに尿閉を繰り返したり、また難治性の肉眼的血尿の原因となっているような症例では手術療法を選択します。通常尿道からの内視鏡手術が一般的で、経尿道的前立腺切除術（TUR－P）〈図－3参照：内視鏡の先端に切除ループが着いていて、前立腺を内側（尿道側）から順次削っていく〉が標準的かと思われます。経験的には、特に重篤な合併症がなければご高齢の方でもほぼ安全に手術可能で、排尿障害の改善も良好と感じています。

以上、前立腺肥大症に対する治療につきお話しました。

【表－1】

前立腺肥大症に対する治療薬

①α－ブロッカー：尿道抵抗を下げる
②PDE5阻害剤：膀胱を弛緩（頻尿に有効）
③5α還元酵素阻害薬：前立腺を縮小

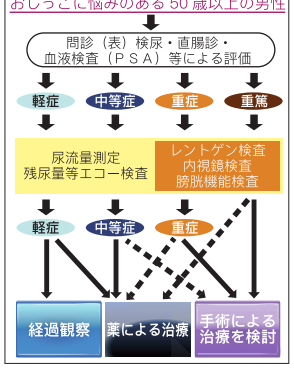
【表－2】

過活動膀胱（OAB）に対する主な治療薬

①抗コリン剤
②β_3刺激薬

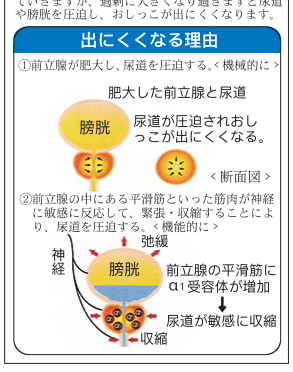
【図－1】

診断と治療の流れ

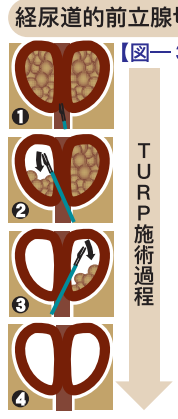


【図－1】

前立腺肥大症とは



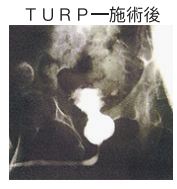
経尿道的前立腺切除術（TUR－P）



【図－3】

TURP－施術前

TURP－施術後



新シリーズ　安住管理栄養士の腎臓病、透析食レシピ

④デザート

このシリーズは安住管理栄養士による腎臓病、透析食レシピを4回にわたり掲載しています。第1回目の新年号では「主食」の「えびと銀杏の混ぜご飯」を掲載しました。第2回目は「主菜」の「鮭のケッカソース仕立て」を、3回目は「副菜」を掲載しました。最終回となる今号では「デザート」を紹介します。

旬のリンゴでコンポートムース

【材料（1人分）】

※コンポート
- りんご（赤玉）1/4玉…70g
- 砂糖……5g
- レモン汁……3cc

※ムース
- 卵黄……15g
- 砂糖……5g
- 生クリーム……30g

※ゼリー
- 粉ゼラチン……3g
- 砂糖……6g
- 水……80cc

※飾り
- イタリアンパセリ…1g
- レモン……5g

【作り方】

①りんご1/4個は皮をむかず縦に3等分する。
②①を耐熱皿に並べ砂糖をふりラップをかけ、電子レンジで3分半加熱する。
③生クリームを泡立てて卵黄と砂糖を加えムースを作る。
④次にふやかしたゼラチンを熱湯で溶かし、砂糖を加え冷やす。
⑤グラスの底にムースを入れリンゴを約半分加え、固めたゼラチンをクラッシュし、グラスに入れる。
⑥クラッシュしたゼラチンの上に残りのりんごを載せレモンを飾り、イタリアンパセリを添える。

お知らせ

インフルエンザ予防接種のご案内

接種期間　平成30年10月15日▶12月28日

○伊達市・壮瞥町・洞爺湖町・豊浦町にお住まいで予防接種を受ける日までに65歳以上になる方。上記4市町にお住まいの60歳～64歳の方で心臓病、腎臓病、呼吸器の機能に自己の日常生活が極度に制限される程度の障がいを有する方。 ▶《1回》1,500円

○同4市町にお住いの65歳以上で生活保護世帯の方と世帯全員が市民税非課税の方
＜各市町発行の生活保護受給者証、非課税証明書（手数料が必要です）を当日ご持参ください＞ ▶無料

料金　一般の方《1回》3,500円

※ワクチンがなくなり次第、終了とさせて頂きます。
●次回受診日にあわせて接種することをお勧めいたします。

●当院の予防接種対象患者様は15歳以上の成人の方のみとなります。●ご不明な点などございましたら、職員までお問い合わせください。

待合室 No.47

凄いぞ！日本の高校生

●100回記念となった夏の甲子園が終わり、秋田県代表の金足農業が爽やかで強烈な印象を残しました。プロ球団顔負けの組織力で全国から有力選手を集め、本大会へ臨む伝統校がひしめく中、地元の生徒だけで精一杯に挑み、逆転ホームラン、サヨナラ2ランスクイズの劇的勝利にはシビれました●毎年1月1日、米国カリフォルニア州パサデナで行われるイベント、「ローズ・パレード」に出場する日本の高校生マーチングバンドが、注目されています。特に話題になるのが京都橘高校、元々女子高で大半が女子部員、鮮やかなオレンジのコスチュームでエンターテインメント性に優れた演奏が他団体を圧倒、現地では「オレンジの悪魔」と称され絶賛されています●軍楽隊のイメージが強かったマーチングの枠から飛び出し、行進曲ではなくジャズやポップス、クラシックまで取り入れた日本の高校生バンドが、ダンスを交えた高いパフォーマンスで支持されているのです●大阪桐蔭は音楽の本場オーストリアに遠征、早稲田摂陵高校（大阪）はスペインやイタリア、フランスの音楽祭に参加し高い評価を受けています。両校ともに楽器吹奏に加えメンバーの合唱を組み合わせ、多種多様な演出に加え個々の技量が高く、洗練されたステージが「プロ級」と話題を集めます（これらの活躍はYouTubeにたくさんアップされているので、ぜひご視聴ください）●なぜか野球伝統校に優秀なバンドが多く、甲子園での応援スタイルが各校の個性を伸ばし、演奏に高いエンターテインメントをプラスさせる結果になったようで、意外な甲子園効果が見受けられます。愛工大名電、東邦、岐阜商、習志野、天理などが野球同様に吹奏楽の有名校、これに精華女子高や京都橘、早稲田摂陵などの女子高と女子部員中心の学校が注目を集めます●女子レスリング、日大問題、アマボクシングから体操など問題多発の国内スポーツ界。教育の枠組みが問題視され、監督官庁長官の「他人事」のような意識の低いコメントに唖然とさせられ、東京五輪が危惧されます●一方、甲子園の長い歴史に培われた伝統が新たな時代のヒーローを生み、音楽文化までも向上させる好例もわが国にはあります。しかも学校教育の枠組みで、世界各国から高く評価されています。この高校生の創造力があれば、日本の未来は明るい！凄いぞ！日本の高校生。ここは潔く、若い世代に道を譲りましょう！

研修会　当院の竹内豊副院長が講演

伊達地方腎友会設立20周年記念研修会

記念研修会で講演する竹内副院長

伊達地方腎友会（大西幹夫会長）の20周年を記念する研修会が9月2日、伊達市市民活動センターで開かれました。同会は平成10年5月、いぶり腎泌尿器科クリニック、伊達日赤病院、洞爺協会病院の3病院の透析患者会により結成され、患者様はじめご家族の皆様の透析に対する理解を深めることなどを主な目的に活動しています。

当クリニックはこれまで透析食を正しく理解してもらうための講師派遣など、様々な形で同会の活動に協力してまいりました。今回の記念研修会に於いても「透析患者様の合併症予防と血液検査結果の見方・各種検査項目について」をテーマに、竹内副院長が参加した会員向けに分かりやすく講演しました。受講者の皆様は熱心にメモを取りながら、真剣な表情で聞き入り理解を深めていました。また、当院の看護師数名も参加し、知識を深めました。

お詫び

9月6日未明に発生した胆振東部地震による停電、ブラックアウトにより患者様には大変なご迷惑をおかけしましたこと、心よりお詫び申し上げます。緊急用電源は確保しておりましたが容量不足により、機器の作動が困難になりました。今後は独自の発電装置導入を図り今回のような大規模停電にも対応できるようにし、地域の中核を担う医療機関としての責任を果たしていく所存です。改めて皆様の深いご理解が得られますよう努力いたします。

院長坪　俊輔

社会貢献　アレルギーショック時の対応を講義

教職員を対象に坂東薬局長が指導

エピペンの打ち方を指導する坂東薬局長

伊達市市民活動センターで行われた研修会で、当クリニックの坂東昌志薬局長が講師を務め、重症なアレルギー反応（アナフィラキシー※1）が出た場合の対処法について講義しました。伊達市教育委員会が主催、対象は同市内小中学校の教職員ら合わせて16人。

参加者は、アレルギー症状の進行を一時的に緩和する自己注射薬「エピペン※2」の使用方法など、適切な処置の仕方や心構えを聴講、正しい対処方法を学ぼうと熱心に受講されていました。また、食物アレルギーの特徴や症状についても解説、実際にアレルギーを発症した場合、太ももへのエピペン投与の迅速な仕方など、生徒の生命を守る重要な内容を、真剣に聞き入っていました。

文科省の調査では全国的な少子化のなか、アナフィラキシーの罹患者は逆行するような増加傾向にあり、2007年と2013年の対比では、罹患率が約2倍の増加になっており、このような研修は大変重要と言えます。当院としても今後積極的に協力していく所存です。

※1：アナフィラキシー（英：anaphylaxis）とは、ヒトや他の哺乳類で認められる、急性の全身性かつ重度なⅠ型アレルギー反応の一つ。ほんの僅かなアレルゲンが生死に関わるアナフィラキシー反応（アナフィラキシーショック）を引き起こすことがある。アナフィラキシーは、アレルゲンの摂取、皮膚への接触、注射や時に吸入により惹起され得る。

※2：エピペン（Epinephrine autoinjector）とは、ハチ刺傷、食物アレルギーなどによるアナフィラキシーに対する緊急補助治療に使用される医薬品です。アナフィラキシーを起こす可能性の高い患者が自宅に常備することで、発症の際に医療機関へ搬送されるまでの症状悪化防止に役立っている。汎用の正式名はエピネフリン（アドレナリン）・オートインジェクターであり、エピペンはマイラン・インコーポレイテッド社の登録商標（第4598961号ほか）。他社ではツインジェクトなどの商標のものがあります。

緊急論評　ブラックアウトを考える

教訓を生かすための努力を…

9月6日午前3時7分に発生した「胆振東部地震」は厚真町で震度7を記録したほか、鵡川・安平両町で6強、札幌市でも6弱を記録し甚大な被害をもたらし、41人の尊い命が奪われました。亡くなられた皆様のご冥福をお祈りすると共に、被害にあわれた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

地震発生直後には全道を暗闇に包む「ブラックアウト」を併発、経験したことのない異常事態に陥りました。原因は偏った発電所の配置が挙げられますが、これは災害発生のリスクを軽んじ、経済的な効率性に偏った結果と指摘する見方もあり、当然今後の改善が求められるところです。確かに広大な北海道は、送電管理などコストが高い一面がありますが、電気事業の公益性を鑑みれば安定供給を第一に考えるのが筋であることは、動かし難い事実であります。

道内の大手スーパーが停電による損害賠償を北海道電力に対し請求する動きがありましたが、信頼が崩壊した北電へ一石投じ反省を促す〝意〟を感じた方も結構多いと思います。製造業、小売業、サービス業あらゆる分野で莫大な損害が発生しています。電力への不信が新たなコストを生み、経済全体が停滞する恐れも大げさではなく、あると見るべきです。

電力復旧に際しても、適正な計画で進められたのか？検証が必要でしょう。より公共性の高い施設から復旧させる―、という大前提がありましたが果たしてどうだったのか？北海道のどの地方で、どの地域でどういった事象があったのか、北電は十分に時間をかけ調査し今後へ生かすべきです。

今回のブラックアウトでは〝電気〟の重要さが改めてクローズアップされました。何気なく利用しているコンビニ、銀行、役所、ガソリンスタンドなどありとあらゆる物が電気とともにストップしました。災害からの復興にも電力は欠かせないエネルギーです。全道民が必要としている電力の安定供給を次代へつなげるため、今回の経験を生かすための努力と改革を北電には期待します。

医療法人 社団 泌尿器科・血液透析 いぶり腎泌尿器科クリニック
■発行：いぶりぶ発行委員会　伊達市梅本町2番地15いぶり腎泌尿器科クリニック内 RL0142-21-1400 FM0142-21-1401
■発行/平成30年10月10日■4月・7月・10月・1月の年4回発行　※本誌掲載の写真、記事の無断転用は固くお断り致します。　●発行責任者：横井　浩